

第3回キャリア教育部研修会 報告書

日 時： 令和7年11月5日（水）

会 場： 浜松市立笠井小学校

研修内容： <授業研究>

学級活動 「未来の自分へ～今の自分を見つめて～」

授業者 土屋 希穂 教諭

1～4部会では、笠井小学校、土屋希穂教諭の6年生の授業を参観し、研修した。

1 本単元の目標

- 希望や目標を持つこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しを持ち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けることができる。 (知識及び技能)
- 希望や目標を持つこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生きるために課題を認識し、課題方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践することができる。 (思考力・判断力・表現力)
- 現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しを持ったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。 (学びに向かう力・人間性等)

2 本単元で育成を目指す基礎的・汎用的能力

- ◎見つめる力（自己理解・自己管理能力）

未来の自分マップの作成や振り返りを通して、自分の長所や短所を理解し、自分らしさを発揮できる。また、なりたい自分になるために、自分に必要な力を考えることができる。

- ◎挑戦する力（課題対応能力）

なりたい自分になるために、課題を見付け、解決方法や計画などを考え、進んで解決しようとする。

3 本時について

本時では、修学旅行でなりたい自分に近付くための、具体的な取り組みを考えた。めあてを確かめた後で、本時は、「見つめる力」について学ぶことを子供が自覚できるように、キャリアプレートを提示した。

先輩である笠井中1年生の修学旅行に関するインタビュー映像を見て、課題を捉え、課題の解決方法を話し合うことを通して、なりたい自分に近付くために修学旅行ではどうしたいのかを一人一人が決めることができた。



4 事後研修会

以下の参観の視点に沿ってグループ協議を行った。

①なりたい自分になるために、目標を具体的にイメージする「未来の自分マップ」の活用は、特別活動の目標及びキャリアの目標「見つめる力」を達成することにつながったか。

【よかった点】

- ・マップは、視覚的に自分を見つめることに有効的であり、年間を通して「なりたい自分」を意識できる。
- ・マップに、なりたい自分やそのために必要な力を追加することができ有効的であった。

【改善点】

- ・本時の中で、なりたい自分を確認する時間があるとよかったです。
- ・マップを活用しても、未来をイメージできない子供もいた。
- ・タブレット上で行うため、記入できる量が限られてしまった。

②先輩からのアンケートやインタビュー映像を見たり、課題への解決方法を話し合ったりする本時の活動は、特別活動の目標及びキャリア教育の目標「見つめる力」を達成することにつながったか。

【よかった点】

- ・アンケートやインタビューの映像は分かりやすく、子供たちが活動をイメージしやすかった。
- ・課題と自分をつなげて解決方法を見付けている子供が多く見られた。

【改善点】

- ・修学旅行は体験したことがないので、先輩の課題は理解できても、自分事として捉えることが難しかった。
- ・授業の内容が、「見つめる力」より「挑戦する力」につながっていると感じた。



5 指導講評

花川小学校の池野由香里校長先生より、指導講評をいただいた。学習を通してキャリア教育を実践するためには、授業の中でキャリア教育が展開されていることを子供たちが自覚することが大切である。そのため、①キャリア教育で育てたい力につなぐ「見通し」を子供がもてるようになると、②キャリア教育で育てたい力につなぐ「振り返り」をする時間を設定する、③「学びが未来につなぐ一言」を教師が語る、この3つの手立てが有効である。

